

官命でも動かなかつた雷神様

《新田》

梓衝新田の雷神様は、屋敷の南の山に祀られている。この雷神様は鹿島神社（梓衝神社）の末社で、日照の時は、この雷神様に祈願すれば、必ず雨が降るといわれる。

その昔、白河城主榊原公も、ここに祈願された記録がある。明治の大改革によって、小さい神様は統合されることになって、この雷神様も、梓衝神社に合祀の指令がきた。さあ村中大騒ぎとなったが、お上の命令とて、何とも致し方なかった。

いよいよ合祀の日、屋敷中の人が出て、遷すことになった。みんな遷したくなかったので、始めだれも手を出す者はなかった。村一番の物知りの長老、卯之助爺様が進み出て、「雷神様雷神様、みんなお別れしたくないんだが、お上の命令でどうする事もできない。このわしが、んぶつてお遷しすつからんぶさつてください」といって、神様の祠を綱で背負うとして手かけた。そしたら卯之助爺が、「手がしびれて動かない。雷神様に罰が当たんだ。だれか代れ」といった。

しかし、村一番の長老がこれだから、だれも手を出す人はいなかった。村人は「雷神様は遷っちゃくねえんだ」といって



雷神様の森